

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	にここスイッチ			
○保護者評価実施期間	令和7年3月10日		～	令和7年4月9日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	13名	(回答者数)	7名
○従業者評価実施期間	令和7年3月10日		～	令和7年4月9日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数)	7名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年4月23日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者との連携体制が整っており、支援内容に対する理解や信頼が得られている。	SNSやホームページで活動内容・支援方針を分かりやすく発信している。	活動報告だけでなく、支援の様子やスケジュールも公表し、情報の多様化を図る。
2	子どもが安心して過ごせる環境づくりができており、満足度が高い。	保護者アンケートや職員の自己評価を活用し、環境改善に反映している。	家庭とのやりとりをさらに増やし、個別配慮のフィードバックに活用する。
3	支援プログラムや活動が子どもの特性に応じて工夫されている。	個別支援計画の作成やモニタリングをスタッフ全員で行い、情報共有を行なっている。	より専門的なスキルを持つ職員の育成と外部研修の積極的な導入を検討する。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が少ない。	イベント開催や交流促進のためのマンパワーや企画力が不足している。	地域参加型の行事を計画的に実施し、交流のきっかけを増やす。
2	事業所内での支援の可視化・情報共有が十分ではないとの声の一部があった。	口頭での会議や案内が中心で、他手段での伝達が限定的だった。	議事録を配布し、全スタッフに周知する手段を増やす。
3	保護者向けの研修会や情報提供の機会がまだ少なく、一部の保護者に対しては支援内容が十分に伝わっていない可能性がある。	日々の支援に追われ、保護者との情報共有や家族支援に割ける時間や人的リソースが限られていること。また、情報発信手段が限られているため、内容が届きにくいケースがある。	保護者向けの個別相談会や勉強会を定期的に設けるとともに、SNSや配布物など複数の方法での情報発信を強化する。家庭との連携を深めるためのアンケート実施や要望の収集も行い、必要な支援内容を明確化していく。